

きょうから  
相模原で **桜美林大生、プロ、市民が協力**

桜美林大学（町田市）は二十一日～二十三日、朗読をベースに歌や踊り、楽器の生演奏を組み合わせた「群読音楽劇」と名付けた独自の演劇を、相模原市の同大学プルヌスホール（JR淵野辺駅北口）で上演する。

演目は宮沢賢治原作の「銀河鉄道の夜」。プロのアーティストと学生、市民が協力して作り上げる舞台も特徴で、同大OBでプロダンサーの井上大輔さん以外の出演者はオーディションで選考。応募した百四十五人の学生や市民から、同大の学生十一人を含む十二～八十歳の二十三人が選ばれた。約四十人のスタッフ

**朗読 + 歌 + 踊り + 生演奏**

## 「銀河鉄道の夜」独創的に

は、ほとんどが同大の学生。

練習は十六～二十日の五日間だけだが、連日十時間近く行われ、熱気に満ちていた。演出と脚本を担当した能祖将夫准教授は「いろいろな世代の声が交ざり合うダイナミズム、出演者やスタッフ全員のひた向きさを味わってほしい」と話している。

料金は当日券千二百円。二十一日は午後七時開演。二十二日は同一時と五時、二十三日は同三時と七時の二回上演。

問い合わせは同ホール  
電042(704)7133へ。

（加藤益丈）

